

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(113)(HP 収載) ー最新アナログシステムでの試聴(113)ー

1. 始めに

前報(112)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は声楽曲です。

EMI EAC60257

モーツアルト オペラアリア集

キャサリン・バトル (ソプラノ)

アンドレ・プレヴィン指揮ロンドンフィルハーモニー管弦楽団

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

EMI 盤ということで、EMI、逆相、第4時定数 High で聴いていきました。どの曲もバトルのソプラノの伸びのある高域の美しい美声が聴きどころです。プレヴィン指揮ロンドンフィルハーモニー管弦楽団は控えめに、かつ柔らかい響きでバックを務めています。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、上記の盤の特徴がよく把握できます。

以上/